

ICTの活用について

課題

児童生徒，教員がICTを積極的に活用するための方策

- 児童生徒が障害の状態や特性などに合わせてICT機器が活用できるよう，各学校は教育課程の工夫や教材・教具に関する研究・開発が求められる。

第6回審議会の意見

- 職場にいる子たちは「スマートフォン」を上手に活用しているため，ICTの活用は進める必要がある。
- ICTは障害のある子どもたちにも有効であるため，環境の整備が必要である。
- 特別支援学校は多忙であり教員数も多いため，セキュリティ対策などをサポートできる人材を県から派遣する必要がある。
- 病院と隣接している特別支援学校間のネットワークを構築し授業できるよう，環境の整備が必要である。
- 重度・重複の児童生徒は「スカイプ」を使用して他県の特別支援学校と交流している。
- スマートフォンやタブレットには「アプリ」がたくさんあり，子どもたちにどのようなものが有効か，学生ボランティアなどを招いて検討できるとよい。
- ICTに使われているのではないかと感じるほど，スマートフォンやタブレットから離れられない子どもが増加しており，活用力を育成するとともに「止める」，「使わない」力を養う必要がある。

参考資料

【特別支援学校での活用状況：宮城県】

活動指標	H23(%)
個別の指導計画や教育支援計画をネットワークサーバで管理している特別支援学校の割合	60
情報教育を教育課程に位置づけている特別支援学校高等部の割合	62.5
ICTを活用した授業実践や教材・教具の開発等をホームページで紹介している特別支援学校の割合	5

論 点

- 障害のある子どもに対するICTの活用力を育成するための方策について

(方策の例)

- ICT機器を学習活動に積極的に導入し、学習の理解を深めるとともに、児童生徒の障害の特性などに応じたICT活用の基礎的能力を育成する（スマートフォン、タブレットPC等）。
- 各特別支援学校高等部においては、小・中学部での指導を踏まえて、生徒の障害の状態に応じた情報教育のさらなる充実を図る。
- 各学校において、校内LANの活用や情報管理等に関する研修の充実を図る。
- 各学校において、障害のある児童生徒のICT活用に関する研修会に積極的に参加するとともに、ICT機器（実物投影機、電子黒板、CCTV等）を活用した授業研究会や教材・教具開発に関する校内研修を充実させる。
- 通学が困難な児童生徒の教育を充実させるため、ICT機器の活用方法等について検討する。
- 各学校のホームページを活用し、ICT機器を活用した校内研修や授業実践及び教材・教具の工夫を共有する。
- 通常の学校と特別支援学校の児童生徒が交流活動を一層進展できるよう、情報ネットワークの構築を検討する。